

(1) 平成13年6月19日から25日にかけての大雨による災害

気象概況

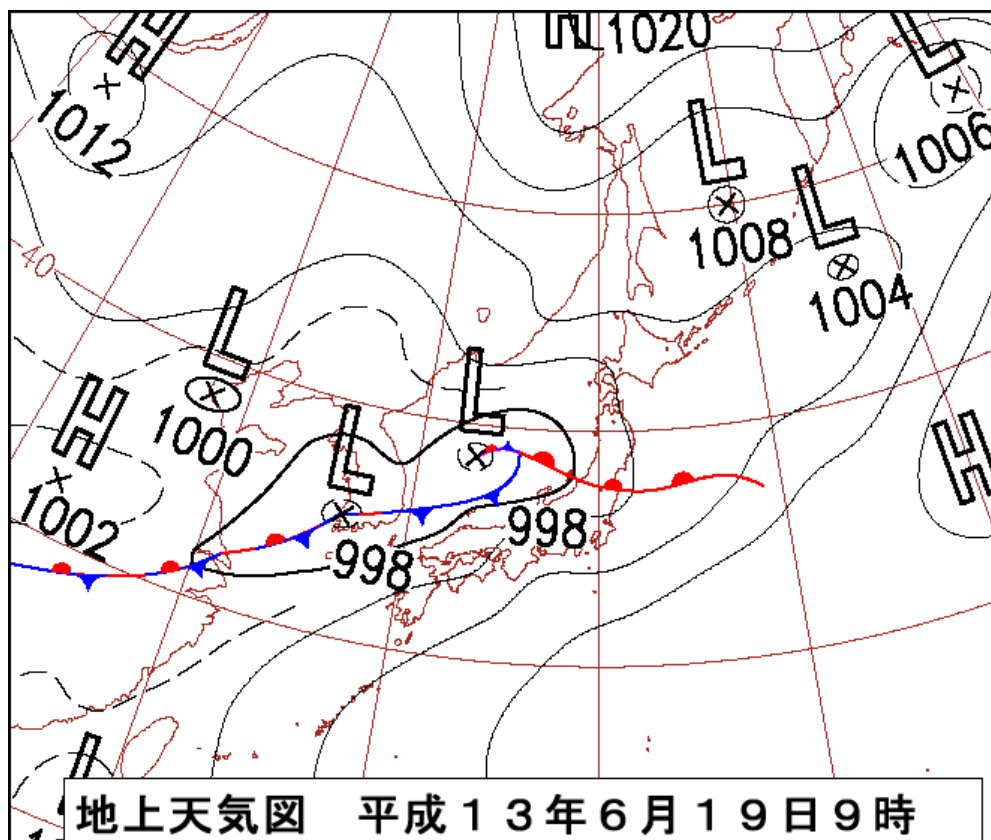
19日には前線が対馬海峡まで南下したため、福岡県では南から暖かく湿った空気が流れ込んだため大気の状態が非常に不安定となり、各地で日降水量が200mmを超える大雨となった。20日は前線が九州を南下し、21日から22日にかけては九州南岸付近に停滞したため、福岡県での雨はやや小康状態となった。

23日は梅雨前線が活動を活発化しながら北上したため、県内各地で日降水量が100mm近い大雨となった。24日から25日にかけては梅雨前線は対馬海峡付近に停滞し、両日とも県内各地で日降水量が50mmを超える雨となった。

この8日間の総雨量の多い地点は、太宰府 513mm 九千部 501mm 添田 488mm 頂吉 478mm 飯塚 442mm などであった。

19日の日降水量の多い地点は、添田 303mm、九千部山 277mm、篠栗 248mm など、23日の日降水量の多い地点は、福岡 99mm、八幡 97mm、太宰府 95mm などであった。

また、1時間降水量の多い地点は、添田 57mm(19日 19時)、九千部 52mm(19日 18時)、太宰府 46mm (25日 10時)、頂吉 43mm(19日 19時)、甘木 42mm(25日 11時)などであった。



(福岡管区气象台)